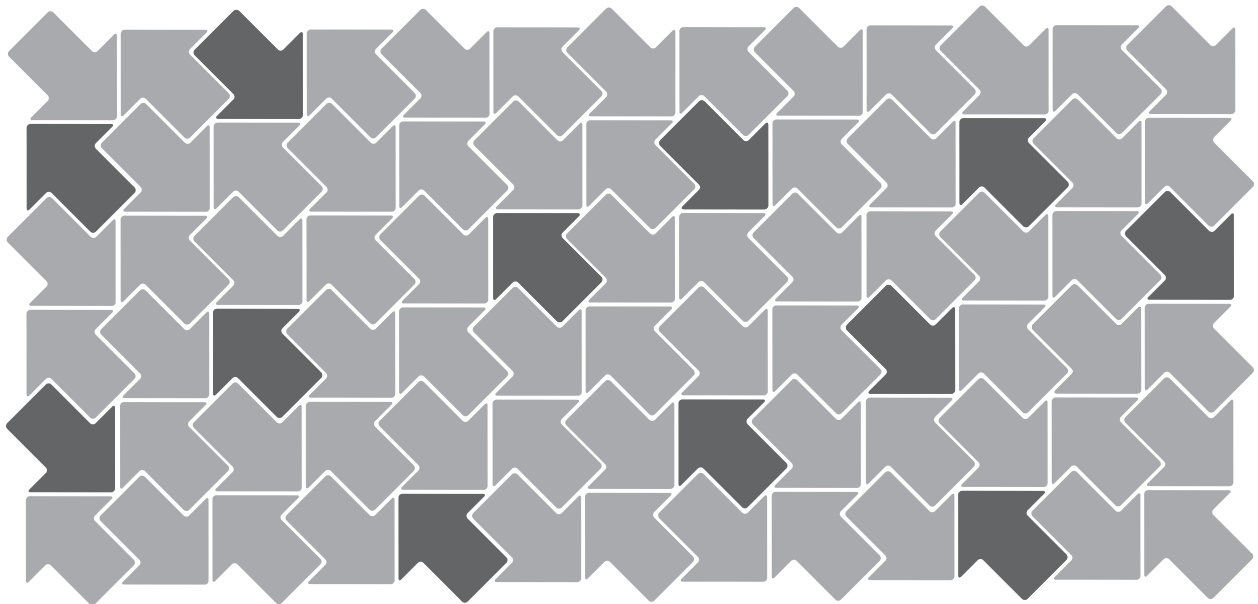


仮想マシンモビリティ プランガイド

August 2007



仮想マシン モビリティ プラン ガイド
リビジョン: 20070817
アイテム: VM-JPN-Q307-250

最新情報を反映したテクニカル ドキュメントは、[VMware Web サイト](http://www.vmware.com/support/)にてご覧いただけます。

<http://www.vmware.com/support/>

VMware Web サイトでは、最新の製品アップデート情報も提供しています。

本ドキュメントに関するコメントがございましたら、以下のアドレスにご連絡ください。

docfeedback@vmware.com

©1998-2007 VMware, Inc. All rights reserved. 本ソフトウェアは、米国特許 (No. 6,397,242、6,496,847、6,704,925、6,711,672、6,725,289、6,735,601、6,785,886、6,789,156、6,795,966、6,880,022、6,944,699、6,961,806、6,961,941、7,069,413、7,082,598、7,089,377、7,111,086、7,111,145、7,117,481、7,149,843、7,155,558、および 7,222,221) により保護されています。特許出願中。

VMware、VMware ボックスロゴとデザイン、Virtual SMP および VMotion は米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。ここに記載されている他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
150-6018 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3
恵比寿ガーデンプレースタワー 18F
www.vmware.com/jp

目次

はじめに 5

- 本書について 5
- 改訂履歴 5
- 本書へのフィードバック 6
- スタイル 6
- テクニカルサポートとエデュケーションリソース 6
 - セルフサービスサポート 6
 - オンラインおよび電話によるサポート 6
 - サポート サービス 6
 - VMware エデュケーション サービス 7

仮想マシンのモビリティ 9

- モビリティの基本 9
 - ESX Server へまたは ESX Server から仮想マシンを移動 9
 - VMware Converter 3 を使用して仮想マシンを移動 10
 - Workstation 6 の Converter インポート ウィザード 11
 - 仮想 IDE と SCSI ハード ディスク タイプ 11
 - VirtualCenter を使用して仮想マシンを移動 11
- 同製品と同バージョンの仮想マシンの移動 11
- 製品の世代 12
- 世代を超えたモビリティ 13
- VMware ACE 14
- VMware Player 14
- 第 6 世代の製品へ移動 15
 - 第 6 世代から第 6 世代 15
 - 第 5 世代から第 6 世代 15
 - ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート 15
 - 第 4 世代から第 6 世代 16
 - ユニプロセッサ仮想マシンの SMP ゲスト OS 16
 - ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート 16
 - 第 3 世代から第 6 世代 17
 - 第 3 世代ホスト製品から第 6 世代ホスト製品への移動 17
 - ESX Server 仮想マシンを Workstation にエクスポート 17
 - 第 2 世代から第 6 世代 17
- 第 5 世代の製品へ移動 18
 - 第 6 世代から第 5 世代 18
 - 第 5 世代から第 5 世代 18
 - 相互操作可能な構成 18
 - ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート 19
 - 第 4 世代から第 5 世代 20
 - ユニプロセッサ仮想マシンの SMP ゲスト OS 20
 - 仮想マシンを ESX Server 2.x から ESX Server 3 に移動 21
 - ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート 21
 - 第 3 世代から第 5 世代 21
 - 第 3 世代のホスト製品から第 5 世代のホスト製品に移動 21
 - ESX Server 仮想マシンを Workstation にエクスポート 22
 - 第 2 世代から第 5 世代 22

第 4 世代の製品へ移動	23
第 6 世代から第 4 世代	23
第 5 世代から第 4 世代	24
SMP 仮想マシンのユニプロセッサ ゲスト OS	24
仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート	24
第 4 世代から第 4 世代	25
相互操作可能構成	25
ユニプロセッサ仮想マシンの SMP ゲスト OS	25
SMP 仮想マシンのユニプロセッサゲスト OS	26
ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート	26
仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート	26
第 3 世代から第 4 世代	26
第 3 世代の仮想マシンと仮想 SMP を備えた ESX Server	26
ESX Server 1.5.x 仮想マシンから ESX Server 2.x に移動	26
第 3 世代のホスト製品から第 4 世代のホスト製品に移動	27
ESX Server 1.5.x 仮想マシンをホスト製品にエクスポート	27
仮想マシンをホスト製品から ESX Server 2.x にインポート	27
第 2 世代から第 4 世代	27
第 2 世代のホスト製品から第 4 世代のホスト製品へ移動	27
ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート	28
第 3 世代の製品へ移動	29
第 6 世代から第 3 世代	29
第 5 世代から第 3 世代	29
第 4 世代から第 3 世代	29
第 3 世代から第 3 世代	29
相互操作可能構成	29
ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート	29
仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート	30
第 2 世代から第 3 世代	30
ESX Server 1.0.x 仮想マシンを ESX Server 1.5.x に移動	30
第 2 世代のホスト製品を第 3 世代のホスト製品に移動	30
第 2 世代の製品へ移動	31
第 6 世代から第 2 世代	31
第 5 世代から第 2 世代	31
第 4 世代から第 2 世代	31
第 3 世代から第 2 世代	31
ESX Server 1.5.x 仮想マシンを ESX Server 1.0.x に移動	31
第 2 世代から第 2 世代	32
相互操作可能構成	32
ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート	32
仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート	32

インデックス	33
--------	----

はじめに

本章では、『仮想マシン モビリティ プラン ガイド』の内容について解説し、テクニカルリソースおよびエデュケーションリソースについて紹介します。

本章の内容は、次のとおりです。

- [本書について](#) (P.5)
- [改訂履歴](#) (P.5)
- [本書へのフィードバック](#) (P.6)
- [スタイル](#) (P.6)
- [テクニカルサポートとエデュケーションリソース](#) (P.6)

本書について

本マニュアル、『仮想マシン モビリティ プラン ガイド』は、ESX Server、GSX Server、VMware Server、VMware ACE、および Workstation のユーザーと管理者に、VMware 製品間での仮想マシンの移動についての情報を提供します。

改訂履歴

『仮想マシン モビリティ プラン ガイド』、リビジョン 20070817、アイテム No. VM-JPN-Q307-250

本マニュアルは、製品の各リリースの際、または必要に応じて改訂されます。改訂には大幅な変更、またはわずかな変更が含まれる場合があります。

表 1 改訂履歴

改訂版	改訂日	記述
20070507 Workstation 6 および VMware Converter 3 に関する情報を含む	2007 年 5 月 7 日	Web 上 PDF
20060614: iESX Server 3.0 および VirtualCenter 2.0 に関する情報を含む	2006 年 6 月 14 日	Web 上 PDF
20060706 VMware Server 1.0 に関する情報を含む	2006 年 7 月 6 日	Web 上 PDF
20061002 仮想マシンインポータ 2.0 に関する情報を含む	2006 年 10 月 2 日	Web 上 PDF

マニュアルの最新版は、VMware Web サイト (http://www.vmware.com/ja/pdf/mobility_guide_JA.pdf) でご覧いただけます。

本書へのフィードバック

本マニュアルに関するコメントがございましたら、下記の電子メールアドレスまでフィードバックをお寄せください。

docfeedback@vmware.com

スタイル

本マニュアルでは、次のスタイル規則を使用しています。

表2 本マニュアルのスタイル規則

スタイル	対象エレメント
青字 (オンラインのみ)	相互参照、Web アドレス、リンク、メールアドレスに使用
LucidaMonoEFO (等倍フォント)	コマンド、ファイル名、ディレクトリ、パスに使用
LucidaMonoEFO (等倍フォント太字)	ユーザー入力を示す場合に使用
[角カッコ]	インターフェイス オブジェクト、ボタンに使用
<山カッコ>	キー、変数およびパラメータに使用
太字	用語集の用語、見出し語に使用
下線	強調したい箇所に使用
『二重かぎカッコ』	文献名に使用

テクニカルサポートとエデュケーションリソース

ここでは、お客様にご利用いただけるテクニカル サポート リソースを紹介します。

セルフサービスサポート

お客様が問題を自身で解決するツールとして、あるいはテクニカル情報として、以下の VMware Technology Network をご利用いただけます。

- 製品情報 <http://www.vmware.com/ja/products/>
- テクニカル情報 <http://www.vmware.com/communities/content/>
- ドキュメンテーション <http://www.vmware.com/ja/support/pubs>
- ナレッジベース <http://www.vmware.com/support/kb>
- ディスカッションフォーラム <http://www.vmware.com/community>
- ユーザーグループ <http://www.vmware.com/communities/content/vmug/index.html>

VMware Technology Network に関する詳細は、<http://www.vmtn.net> を参照してください。

オンラインおよび電話によるサポート

テクニカル サポート リクエストの提出や、製品および契約情報の確認、製品の登録は、オンラインで行うことができます。詳しくは、www.vmware.com/ja/support をご覧ください。

該当するサポート契約を結んでいるお客様の場合、迅速な対応が必要な Severity1 の問題に関しては電話でのサポートをご利用ください。詳しくは、www.vmware.com/ja/support/phone_support.html をご覧ください。

サポート サービス

弊社のサポート サービスがお客様のビジネス ニーズにどのように対応できるかを、<http://www.vmware.com/ja/support/services> にてご検討ください。

VMware エデュケーション サービス

弊社が提供する有償トレーニングでは、広範なハンズオンラボや事例の紹介をいたします。また、業務の際のリファレンスとしてお使いいただける資料も提供しています。詳しくは弊社 Web サイトにある VMware Education Services のページ (<http://mylearn1.vmware.com/mgreg/index.cfm>) をご覧ください。

仮想マシンのモビリティ

仮想マシンを、ホスト コンピュータから他のホストに移動、他の VMware 製品で実行、または同じ VMware 製品の異なるバージョンで実行等、様々な目的で仮想マシンの移動が必要となる場合があります。

本ガイドは、仮想マシンのモビリティを最大限にする仮想コンピュータ環境の構築に必要な情報を提供します。さらに、仮想マシンの移動における新しい環境での実行に必要な変更を行う際の重要事項についても説明します。これらの情報は、次の項目別に解説していきます。

- [モビリティの基本](#) (P.9)
- [同製品と同バージョンの仮想マシンの移動](#) (P.11)
- [製品の世代](#) (P.12)
- [世代を超えたモビリティ](#) (P.13)
- [VMware ACE](#) (P.14)
- [VMware Player](#) (P.14)
- [第 6 世代の製品へ移動](#) (P.15)
- [第 5 世代の製品へ移動](#) (P.18)
- [第 4 世代の製品へ移動](#) (P.23)
- [第 3 世代の製品へ移動](#) (P.29)
- [第 2 世代の製品へ移動](#) (P.31)

モビリティの基本

VMware 製品での仮想マシンの移動には、2 つの方法があります。

- 仮想マシンのファイルを別の場所にコピーするか、別の VMware 製品を使用して仮想マシンを実行して、仮想マシンを手作業で移動する。
- VMware Converter ユーティリティを使用して、仮想マシンを異ったソースフォーマットから VMware 製品にインポートする。

ESX Server へまたは ESX Server から仮想マシンを移動

VMware ESX Server は、VMware GSX Server、VMware Server、VMware Player や VMware Workstation のようにホスト OS 上で実行する VMware 製品のフォーマットとは異なり、仮想ディスク ファイル フォーマットを使用しています。その為、仮想マシンを他の VMware 製品を実行しているシステムから ESX Server ホスト システムに移動する場合、ESX Server のマニュアルに従って (適応可能であれば、VMware Converter を使用することもできます。)、仮想ディスクをインポートする必要があります。仮想マシンを ESX Server システムから他の VMware 製品を実行しているシステムに移動する場合は、ディスクをエクスポートする必要があります。

以下の点を留意してください。

- ESX Server システムの仮想ディスクが取り消し可能またはアペンドモードにある場合は、ディスクをエクスポートする際 redo ログファイルを破棄するかコミットする必要があります。
- スナップショットが設定されているWorkstationまたはGSX Serverの仮想マシンからディスクをインポートする場合は、初めにスナップショットを削除する必要があります。スナップショットを削除する前に、製品マニュアルをご覧いただき、仮想マシンを望ましい状態に保つ方法を確認してください。
- サスペンド状態にある仮想マシンをインポートすることはできません。ESX Server にインポートする前に、必ず仮想マシンがパワーオフされていることを確認してください。

VMware Converter 3 を使用して仮想マシンを移動

VMware Converter 3 は自由に利用できる製品で、これを使用して、特定の第 5 世代製品と第 4 世代製品の間で仮想マシンを移動することができます。(世代に関する詳細は「[製品の世代](#) (P.12)」を参照してください。)

VMware Converter を使用すると、Workstation、VMware Player、VMware ACE、ESX Server、GSX Server、および VMware Server 間で VMware 仮想マシンを移動させることができます。さらに、Microsoft Virtual Server および Virtual PC から仮想マシンをインポートすることもできます。

表 1 「[VMware Converter 3 がサポートするソースおよびインポート先マシン](#)」 (P.10) では、VMware Converter がサポートするソースおよびインポート先マシンを表示しています。

VMware Converter は、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムで稼働します。

- Windows NT SP6+ (IE5 以降)
- Windows 2000
- Windows 2003 32 ビットおよび 64 ビット
- Windows XP Professional 32 ビットおよび 64 ビット

VMware Converter は、上記のオペレーティングシステムをゲスト OS として使用している仮想マシンで稼働することができます。

注意 VMware Converter は Windows のみで動作しますが、移行後は、VMware がサポートする任意のホストプラットフォームに仮想マシンを移動することができます。

VMware Converter は、<http://www.vmware.com/ja/products/converter> からダウンロードすることができます。VMware Converter のドキュメントは、http://www.vmware.com/ja/pdf/VMware_Converter_manual_ja.pdf にてご覧いただけます。

表 1 VMware Converter 3 がサポートするソースおよびインポート先マシン

VMware 製品またはサードパーティ仮想マシンからのインポート (ソース)	VMware 製品へエクスポート (インポート先)
VMware 製品	Workstation 5.x 仮想マシン (VMware Player および VMware Server と互換性のある)
Workstation 5.x 仮想マシン (VMware Player および VMware Server と互換性のある)	Workstation 4.x 仮想マシン (GSX Server 3.x、ESX Server 2.x、および ACE 1.x と互換性のある)
Workstation 4.x 仮想マシン (GSX Server 3.x、ESX Server 2.x、および ACE 1.x と互換性のある)	ESX Server 3.x
ESX Server 3.x	ESX Server 2.5.x (VirtualCenter 2.x によって管理されている場合)
ESX Server 2.5.x (VirtualCenter 2.x によって管理されている場合)	VirtualCenter 2.x
VirtualCenter 2.x	VMware Server 1.x
GSX Server 3.x	VMware Player 1.x
	VMware ACE 1.x
サードパーティ仮想マシン	GSX Server 3.x
Microsoft Virtual PC version 7 以降	
Microsoft Virtual Server の全てのバージョン	

注意 VMware Converter 3 では、仮想マシンのインポート以外にも、物理マシンからのクローン作成、VMware Consolidated Backup イメージの復元またはインポート、そして、特定のサードパーティ イメージを Symantec Backup Exec System Recovery、Norton Ghost、および StorageCraft Shadow Protect から移行することが可能です。Converter 3 のこれらのイメージのサポートおよび制限に関する詳細は、『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

Workstation 6 の Converter インポート ウィザード

Workstation 6 には、VMware Converter 3 製品からの Converter インポート ウィザードが組み込まれており、第 4 世代、第 5 世代、そして第 6 世代で使用できるようになりました。Workstation 6 に組み込まれている Converter インポート ウィザードを使用して、ローカルまたはリモートの物理マシンから、または仮想マシンおよび VMware 製品以外の製品を使用して作成されたシステム イメージから VMware 仮想マシンを作成することができます。さらに、ウィザードを使用して VMware フォーマットを使用した仮想マシンから他のフォーマットを使用したものに変更することもできます。例えば、VMware Server 仮想マシンをコピーして、それを ESX 仮想マシンの作成に使用することも可能です。

この Converter インポート ウィザードの機能は Workstation 6 に含まれていますが、タスク マネージャや一度に複数の仮想マシンをインポートする機能など、VMware Converter の他の機能を使用するには、VMware Converter Enterprise Edition をダウンロードし、VirtualCenter の Support and Subscription license を取得する必要があります。

仮想 IDE と SCSI ハード ディスク タイプ

ホスト製品は、仮想 BusLogic および LSI Logic HBA を使用して、SCSI ハードディスクおよび IDE ハードディスクのエミュレーションをサポートしています。つまり、仮想マシンが IDE 仮想ディスクを使用している場合、再構成または変更なしでは、いかなる世代であろうとも、ホスト製品から ESX Server へ仮想マシンを移行することはできません。ゲスト OS のタイプによっては、ホスト製品の新規仮想マシン ウィザードがデフォルトで IDE ディスクを構成します。ESX Server 互換の仮想マシンを作成するには、意図的にデフォルトをオーバーライドし、SCSI 仮想ディスクを作成する必要があります。

ホスト製品の仮想マシンを ESX Server に移行するために VMware Converter を使用すれば、第 4 世代と第 5 世代製品での処理は簡単に行えます。IDE ディスクと Windows NT、Windows 2000、Windows XP、または Windows 2003 ゲスト OS を備えた仮想マシンで、ESX Server を仮想マシンのインポート先として指定した場合、VMware Converter は仮想マシンを SCSI ディスクに再構成します。

VMware Converter は特定のゲスト OS (Linux、Windows 95、Windows 98、Windows Me) を再構成しないので、これらのゲスト OS を実行している IDE 仮想マシンは、インポートが行えても、変更を行わなければ正常に機能しない場合があります。VMware ナレッジ ベース 1881 の「Converting a Virtual IDE Disk to a Virtual SCSI Disk」(<http://kb.vmware.com/kb/1881>) を参照してください。

VirtualCenter を使用して仮想マシンを移動

ESX Server、GSX Server、VMware Server、またはこれらを同時に実行しているホストシステム間で仮想マシンを移動する必要がある場合は、VMware VirtualCenter の機能を確認してください。VirtualCenter を使用すると、仮想マシンの移動に関連するタスクを著しく簡易化することができます。ESX Server を実行するホストシステムでは、VMotion™ として知られる VirtualCenter エンハンスメント機能により、パワーオン状態でトランザクションを行っている仮想マシンの移動をも可能にします。

注意 VirtualCenter 1.x は、ESX Server、VMware Server、および GSX Server をサポートします。VirtualCenter 2.x は、ESX Server のみをサポートします。

同製品と同バージョンの仮想マシンの移動

すべてのユーザーが同じ VMware 製品とバージョンを使用することが、モビリティにおけるもっとも単純な環境といえます。そのような環境下では、仮想マシンの移動は、主に仮想マシンのファイルを新しい場所に移動することで完了します。

これら単純な操作に関する詳細は、使用の VMware 製品の説明書を参照してください。

製品の世代

仮想マシンを異なる VMware 製品間で移動する場合、もっとも単純な稼動環境は、同じ世代の VMware 製品を使用することです。そして一般的に、異なる製品間のモビリティは、最新の世代が最良といえます。

異なる製品は異なった時期に発売されているため、バージョン番号によって対応する世代を判断することはできません。

現在サポートされている世代別の製品は以下の通りです。これ以前の製品はサポートされていません。

- **第2世代** GSX Server 1.x、ESX Server 1.0 および 1.1
- **第3世代** Workstation 3.x、GSX Server 2.x、ESX Server 1.5
- **第4世代** Workstation 4.x、VMware ACE 1.x、GSX Server 3.x、ESX Server 2.x (ユニプロセッサと SMP)
- **第5世代** Workstation 5.x、VMware Player 1.x、VMware Server 1.x、ESX Server 3.x
- **第6世代** Workstation 6.x、VMware ACE 2.x、VMware Player 2.x

同世代の製品は類似の機能と仮想ハードウェアを備えているので、製品間の仮想マシンの移動が容易になります。仮想マシンが相互利用可能な場合が最も容易で、修正なしにシステム間の移動ができ、問題なく稼動します。しかし、同世代の製品間でも、機能の違いによって移動時に特別な手順が必要となる場合もあります。

ひとつの例は、対称型マルチ プロセッシング (SMP) で、仮想 SMP を備えた ESX Server、VMware Server、および Workstation 5.5 またはそれ以降でのみ利用可能な機能です。マルチ プロセッサ仮想マシンにゲスト OS をインストールすると、インストーラは通常マルチプロセッサを特別にサポートするハードウェア アブストラクション レイヤまたはカーネルをゲスト OS に構成します。このようにインストールされたゲスト OS は、通常ユニプロセッサ仮想マシンでは稼動することができません。

世代を超えたモビリティ

次の表は、世代の異なる製品間で仮想マシンを移動する場合の難易度を示しています。特定の世代間の特別な手順に関する詳細は、それぞれの参照先をご覧ください。

表 2 世代を超えたモビリティ

		移動先ホストシステム				
		第 6 世代	第 5 世代	第 4 世代	第 3 世代	第 2 世代
移動する仮想マシン	第 6 世代	ほとんどの場合問題なし。 「第 6 世代から第 6 世代 (P.15)」を参照。	ほとんどの場合問題なし。 「第 6 世代から第 5 世代 (P.18)」を参照。	ほとんどの場合問題なし。 「第 6 世代から第 4 世代 (P.23)」を参照。	サポートなし。 「第 6 世代から第 3 世代 (P.29)」を参照。	サポートなし。 「第 6 世代から第 2 世代 (P.31)」を参照。
	第 5 世代	ほとんどの場合問題なし。 「第 5 世代から第 6 世代 (P.15)」を参照。	ほとんどの場合問題なし。 「第 5 世代から第 5 世代 (P.18)」を参照。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。それ以外は、特別な手順を要する。 「第 5 世代から第 4 世代 (P.24)」を参照。	サポートなし。 「第 5 世代から第 3 世代 (P.29)」を参照。	サポートなし。 「第 5 世代から第 2 世代 (P.31)」を参照。
	第 4 世代	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。それ以外は、特別な手順を要するかサポートなし。 「第 4 世代から第 6 世代 (P.16)」を参照。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。それ以外は、特別な手順を要するかサポートなし。 「第 4 世代から第 5 世代 (P.20)」を参照。	ほとんどの場合問題なし。 「第 4 世代から第 4 世代 (P.25)」を参照。	ほとんどの場合特別な手順を要する。 「第 4 世代から第 3 世代 (P.29)」を参照。	サポートなし。 「第 4 世代から第 2 世代 (P.31)」を参照。
	第 3 世代	サポートなし。 「第 3 世代から第 6 世代 (P.17)」を参照。	一方向のみ、またはサポートなし。 「第 3 世代から第 5 世代 (P.21)」を参照。	特別な手順を要するかサポートなし。 「第 3 世代から第 4 世代 (P.26)」を参照。	ほとんどの場合問題なし。 「第 3 世代から第 3 世代 (P.29)」を参照。	ほとんどの場合サポートなし。 「第 3 世代から第 2 世代 (P.31)」を参照。
	第 2 世代	サポートなし。 「第 2 世代から第 6 世代 (P.17)」を参照。	サポートなし。 「第 2 世代から第 5 世代 (P.22)」を参照。	一方向のみ、またはサポートなし。 「第 2 世代から第 4 世代 (P.27)」を参照。	場合によって異なる。 「第 2 世代から第 3 世代 (P.30)」を参照。	ほとんどの場合問題なし。 「第 2 世代から第 2 世代 (P.32)」を参照。

通常、同じ世代または前後の世代 (第 5 世代と第 6 世代、第 4 世代と第 5 世代等) の製品で稼動環境を設定することができます。適切な選択を行えば、異なる世代の製品間で仮想マシンを自由に移動させることが可能です。

一般的に、世代を飛ばすと (第 2 世代から第 4 世代等)、仮想マシンの移動を自由に行う稼動環境を設定することはできません。そのような環境下では、仮想ハードウェアをアップグレードして、第 4 世代の製品で実行できるようにする必要があります。これはほとんどの場合一方向のみで、仮想ハードウェアをアップグレードした後は、第 2 世代の製品で仮想マシンを実行することはできなくなります。

VMware ACE

VMware ACE は特別な機能を備えている為、他の VMware 製品との仮想マシンの移動に影響を及ぼします。以下のように、VMware ACE プロジェクトで VMware 仮想マシンを使用することが可能です。

- Workstation 4.x または GSX Server 3.x で作成した仮想マシンを VMware ACE プロジェクトで使用。
- Workstation 6.x で作成した仮想マシンを VMware ACE 2.x プロジェクトで使用。
- Workstation 6バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンを第6世代にアップグレードすることにより、Workstation 5.x および VMware Server 1.x で作成した仮想マシンを ACE 2.0 プロジェクトで使用。
- VMware Converter を使用して仮想マシン第6世代と互換性を持つように仮想マシンを転換し、Workstation 6バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンを第6世代にアップグレードすることにより、ESX 3.x で作成した仮想マシンを ACE 2.0 プロジェクトで使用。

しかし、VMware ACE のセキュリティ機能により、仮想マシンがパッケージに追加されていない、いかなるポリシーも設定されていない場合に限り、VMware ACE で作成された仮想マシンを他の VMware 製品に移動することができます。

注意 ESX Server 仮想マシンを VMware ACE を含むホスト製品で実行するには、仮想ディスク ファイルをエクスポートする必要があります。仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、使用の製品により、『ESX Server 2.x 運用ガイド』、仮想インフラストラクチャ 3 『基本システム管理』または『仮想マシン Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

VMware Player

VMware Player を使用して、他の VMware 製品で作成された仮想マシンを実行することができます。しかし、VMware Player で仮想マシンを作成することはできません。

VMware Player 1.x は、第4世代と第5世代の製品で作成された仮想マシンを実行します。VMware Player 2.x は、第6世代の製品で作成された仮想マシンを実行します。VMware Player を使用して第3世代以前の VMware 製品で作成された仮想マシンを実行する場合は、初めに仮想マシンを作成可能な第4世代、第5世代、または第6世代の製品を使用して仮想マシンをアップグレードする必要があります。

注意 ESX Server 仮想マシンを VMware Player を含むホスト製品で実行するには、仮想ディスク ファイルをエクスポートする必要があります。仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、使用の製品により、『ESX Server 2.x 運用ガイド』、仮想インフラストラクチャ 3 『基本システム管理』または『仮想マシン インポータ 2.0 ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 6 世代の製品へ移動

このセクションでは、仮想マシンを第 6 世代の製品に移動する際の留意すべき点を説明します。

第 6 世代から第 6 世代

仮想マシンを第 6 世代の製品から第 6 世代の製品に移動するには、以下の表に示すように、特別な手順は必要ありません。仮想マシンをあるホストから別のホストに移動することは、単に仮想マシン フォルダの全てのファイルをソース コンピュータから移動先コンピュータにコピーすることを意味します。

表 3 第 6 世代から第 6 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム
		Workstation 6.x
移動する仮想マシン	Workstation 6.x	ほとんどの場合問題なし。

詳細に関しては、『Workstation 6 ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 5 世代から第 6 世代

仮想マシンを第 5 世代の製品から第 6 世代の製品に移動するには、以下の表に示すように、特別な手順は必要ありません。

表 4 第 5 世代から第 6 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム
		Workstation 6.x
移動する仮想マシン	Workstation 5.x	ほとんどの場合問題なし。 Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをアップグレードするか、レガシーモードで実行。
	VMware Server 1.x	ほとんどの場合問題なし。 Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをアップグレードするか、レガシーモードで実行。
	ESX Server 3.x	仮想ディスクをエクスポート。 Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをアップグレードするか、レガシーモードで実行。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存する独自のファイル フォーマットがあります。ホスト製品 (Workstation、VMware Player、VMware Server、および GSX Server) は、通常仮想ディスク ファイルをホストコンピュータのファイル システムまたはホスト OS によってアクセス可能なネットワーク サーバに保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用できるフォーマットにする必要があります。

VMware Converter を使用しての仮想マシンの移動に関する詳細は、『VMware Converter ユーザー ガイド』を参照し、Workstation 6.0 の VMware Converter インポート ウィザード を使用しての仮想マシンの移動に関する詳細は、『Workstation 6 ユーザー マニュアル』を参照してください。

VMware Converter を使用せずに仮想ディスク ファイルをエクスポートする場合の詳細は、Virtual Infrastructure 3 『基本システム管理』を参照してください。仮想ディスクをエクスポートした場合、Workstation 6 で仮想マシンを作成し、新規仮想マシン ウィザードで [カスタム] オプションを選択します。Workstation 5 に [ハードウェア互換性] を設定し、[ESX Server と互換性がある] オプションを選択します。ウィザードの [ディスクの選択] パネルで、[既存の仮想ディスクを使用] を選択し、エクスポートしたディスクを参照します。Workstation 6 での仮想マシンの作成に関する詳細は、『Workstation 6 ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 4 世代から第 6 世代

仮想マシンを第 4 世代の製品から第 6 世代の製品に移動するには、以下の表に示すように特別な手順が必要になります。

表 5 第 4 世代から第 6 世代への仮想マシンの移動

移動先ホストシステム		
Workstation 6.x		
移動する仮想マシン	仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	仮想ディスクをエクスポート。 Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをアップグレードするか、レガシーモードで実行。
	ESX Server 2.x	仮想ディスクをエクスポート。 Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをアップグレードするか、レガシーモードで実行。
	GSX Server 3.x または Workstation 4.x	Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをアップグレードするか、レガシーモードで実行。

ユニプロセッサ仮想マシンの SMP ゲスト OS

マルチプロセッサ仮想マシンにゲスト OS をインストールすると、インストーラは通常マルチプロセッサを特別にサポートするハードウェア アブストラクション レイヤまたはカーネルをゲスト OS に構成します。このようにインストールされたゲスト OS は、通常ユニプロセッサ仮想マシンでは稼動することができません。

そのため、仮想 SMP を備えた ESX Server から仮想マシンを移動できるのは、仮想 SMP をサポートする VMware 製品 (Workstation 5.5 以降、および VMware Server) のみです。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスクファイルを保存する独自のファイルフォーマットがあります。ホスト製品 (Workstation、および GSX Server) は、通常仮想ディスク ファイルをホストコンピュータのファイル システムまたはホスト OS によってアクセス可能なネットワーク サーバに保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用できるフォーマットにする必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 2.x 運用ガイド』を参照してください。

仮想ディスクをエクスポートした場合、Workstation 6 で仮想マシンを作成し、新規仮想マシン ウィザードで [カスタム] オプションを選択します。Workstation 4 に [ハードウェア互換性] を設定し、[ESX Server と互換性がある] オプションを選択します。ウィザードの [ディスクの選択] パネルで、[既存の仮想ディスクを使用] を選択し、エクスポートしたディスクを参照します。Workstation 6 での仮想マシンの作成に関する詳細は、『Workstation 6 ユーザー マニュアル』を参照してください。

VirtualCenter 2 を使用して ESX Server 2.5.x を管理している場合は、VMware Converter 3 を使用して仮想マシンを移動することができます。

第 3 世代から第 6 世代

仮想マシンを第 3 世代の製品から第 6 世代の製品に移動するには、以下の表に示すように、特別な手順が必要になります。

表 6 第 3 世代から第 6 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム
		Workstation 6.x
移動する仮想マシン	ESX Server 1.5.x	仮想ディスクをエクスポート。 Workstation 4 または 5 を使用して仮想ハードウェア（一方向）を第 4 世代または第 5 世代にアップグレードし、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想ハードウェアを第 6 世代にアップグレード。
	GSX Server 2.x または Workstation 3.x	Workstation 4 または 5 を使用して仮想ハードウェア（一方向）を第 4 世代または第 5 世代にアップグレードし、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想ハードウェアを第 6 世代にアップグレード。

第 3 世代ホスト製品から第 6 世代ホスト製品への移動

GSX Server 2 または Workstation 3 から Workstation 5、ESX Server 3、または VMware Server 1 に仮想マシンを移動する場合、プロセスは一方向です。一度移動した仮想マシンを元の製品に戻すことはできません。仮想マシンを移動した後に、仮想ハードウェアをアップグレードする必要があります。そして、Workstation 6 バージョン変更ウィザードまたは VMware Converter を使用して仮想マシンを第 6 世代にアップグレードすることができます。

詳細は、『Workstation 5 ユーザー マニュアル』、『Workstation 6 ユーザー マニュアル』、および『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

ESX Server 仮想マシンを Workstation にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスクファイルを保存する独自のファイルフォーマットがあります。Workstation は、通常仮想ディスク ファイルをホストコンピュータのファイルシステムまたはホスト OS によってアクセス可能なネットワーク サーバに保存します。仮想マシンを ESX Server から Workstation に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用できるフォーマットにする必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 2 世代から第 6 世代

仮想マシンを第 2 世代の製品から直接第 6 世代の製品に仮想マシンを移動することはできません。

中間製品を使用して、3 段階のプロセスで仮想マシンを移動することはできます。例えば、第 3 世代の製品がある場合、初めに各仮想マシンを第 3 世代の製品に移動し、仮想ハードウェアをアップグレードします。次に各仮想マシンを第 4 世代または第 5 世代の製品に移動し、仮想ハードウェアをもう一度アップグレードします。最後に Workstation 6 バージョン変更ウィザードまたは VMware Converter を使用して、仮想マシンを第 6 世代にアップグレードします。

詳細は、『Workstation 5 ユーザー マニュアル』、『Workstation 6 ユーザー マニュアル』、および『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 5 世代の製品へ移動

このセクションでは、仮想マシンを第 5 世代の製品に移動する際の留意すべき点を説明します。

第 6 世代から第 5 世代

Workstation 6 のバージョン変更ウィザードを使用することによって、Workstation 6 仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンを第 6 世代から第 5 世代にダウングレードすることができます。

表 7 第 6 世代から第 5 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム		
		Workstation 5.x	VMware Server 1	ESX Server 3
移動する仮想マシン	Workstation 6	Workstation 6 Converter インポート ウィザードを使用すれば、ほとんどの場合問題なし。	Workstation 6 Converter インポート ウィザードを使用すれば、ほとんどの場合問題なし。	Workstation 6 Converter インポート ウィザードを使用すれば、ほとんどの場合問題なし。
	Workstation 6.x	または、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをダウングレード。	または、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをダウングレード。	または、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをダウングレードし、次に VMware Converter 3 を使用するか、仮想ディスクをインポート。

第 5 世代から第 5 世代

仮想マシンを第 5 世代の製品から第 5 世代の製品に移動するには、以下の表に示すように、特別な手順は必要ありません。

表 8 第 5 世代から第 5 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム		
		Workstation 5.x	VMware Server 1	ESX Server 3
移動する仮想マシン	Workstation 5.x	ほとんどの場合問題なし。	ほとんどの場合問題なし。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをインポート。
	VMware Server 1	ほとんどの場合問題なし。	ほとんどの場合問題なし。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをインポート。
	ESX Server 3	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。	ほとんどの場合問題なし。

相互操作可能な構成

ほとんどの場合、第 5 世代製品間での仮想マシンの移動は、VMware Converter 3 を使用するのが一番簡単な方法です。詳細は、「[VMware Converter 3 を使用して仮想マシンを移動 \(P.10\)](#)」および『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

VMware Converter を使用しなくても、仮想マシン フォルダにあるすべてのファイルをソース コンピュータから移動先コンピュータにコピーして、あるホストから別のホストへ仮想マシンを移動することができます。

注意 Workstation 5.0 ではサポートされていなかった 64 ビットゲスト OS と仮想 SMP の 2 つの主要機能が、Workstation 5.5、VMware Server 1、および ESX Server 3 ではサポートされるようになりました。これらの機能の両方またはどちらかを使用する仮想マシンは、Workstation 5.0 に移動することはできません。

詳細は、『Workstation 5 ユーザー マニュアル』および『VMware Server 1.x ユーザー マニュアル』を参照してください。

注意 Workstation 5.0 以降の試験的 3-D 機能を利用するには、使用の Workstation のバージョンに対応する VMware Tools のバージョンが仮想マシンで実行されている必要があります。つまり、Workstation 5.0 で実行している仮想マシンは、Workstation 5.0 に備えられた VMware Tools のバージョンを実行している必要があります。Workstation 5.5 で実行している仮想マシンは、Workstation 5.5 に備えられた VMware Tools のバージョンを実行している必要があります。仮想マシンを移動して、3-D の機能を使用する場合は、適切な VMware Tool のバージョンがインストールされていることを確認してください。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存する独自のファイル フォーマットがあります。ホスト製品 (Workstation、VMware Player、VMware Server および GSX Server) は、通常仮想ディスク ファイルをホスト コンピュータのファイル システムまたはホスト OS によってアクセス可能なネットワーク サーバに保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクがホスト製品によって使用できるようなフォーマットになるように仮想ディスクをエクスポートする必要があります。

VMware Converter 3 を使用しての仮想マシンの移動に関する詳細は、『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

VMware Converter 3 を使用しないで、仮想ディスク ファイルをエクスポートする場合は、仮想インフラストラクチャ 3 『基本システム管理』を参照してください。

第 4 世代から第 5 世代

仮想マシンを第 4 世代の製品から第 5 世代の製品へ移動するには、以下の表に示すように、特別な手順が必要になります。

表 9 第 4 世代から第 5 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストマシン			
		Workstation 5.0.x	Workstation 5.5.x	VMware Server 1	ESX Server 3
移動する仮想マシン	仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	サポートなし。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。
	ESX Server 2.x	仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。
	GSX Server 3.x または Workstation 4.x	仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)またはレガシーモードで実行。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、仮想ディスクをインポートし、それを使用して ESX Server 3 に新しい仮想マシンを作成。 仮想ハードウェアをアップグレード(一方向)。 注: ESX Server 3 では、ホスト構成ファイルの ESX Server 3 へのコピーと仮想マシンの登録はサポートされていません。

ユニプロセッサ仮想マシンの SMP ゲスト OS

マルチプロセッサ仮想マシンにゲスト OS をインストールすると、インストーラは通常マルチプロセッサを特別にサポートするハードウェア アブストラクション レイヤまたはカーネルをゲスト OS に構成します。

このようにインストールされたゲスト OS は、通常ユニプロセッサ仮想マシンでは稼動することができません。

このため、仮想 SMP を備えた ESX Server からの移動は、仮想 SMP をサポートする他の VMware 製品 (Workstation 5.5 以降、および VMware Server) へのみサポートされています。

仮想マシンを ESX Server 2.x から ESX Server 3 に移動

仮想マシンを ESX Server 2.x から ESX Server 3 に移動する前に、仮想マシンをもう一度 ESX Server 2.x に戻すことができるようにするかを決めます。後で仮想マシンを ESX Server 2.x で実行したい場合は、ESX Server 3 ではレガシーモードで (仮想ハードウェアはアップグレードしない。) 仮想マシンを実行します。

一方向の移動のみで、後で仮想マシンを ESX Server 2.x で実行する必要がない場合は、仮想マシンを移動した後に仮想ハードウェアをアップグレードします。これによって、ESX Server 3 の改善された仮想ハードウェアを利用することが可能です。詳細は、仮想インフラストラクチャ 3 『基本システム管理』を参照してください。

VirtualCenter 2 を使用して ESX Server 2.5.x を管理している場合は、VMware Converter 3 を使用して仮想マシンを移動することができます。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存するために独自のファイル フォーマットが備えられています。ホスト製品 (Workstation および GSX Server) は、通常ホスト コンピュータのファイル システムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワーク サーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 2.x 運用ガイド』を参照してください。

VirtualCenter 2 を使用して ESX Server 2 を管理している場合は、仮想マシンインポータ 2.0 を使用して仮想マシンを移動することができます。

第 3 世代から第 5 世代

仮想マシンを第 3 世代の製品から第 5 世代の製品に移動するには、以下の表に示すように、特別な手順が必要になります。

表 10 第 3 世代から第 4 世代への仮想マシンの移動

	移動先ホストシステム			
	Workstation 5.x	VMware Server 1	ESX Server 3	
移動する仮想マシン	ESX Server 1.5.x	仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード (一方向)。	仮想ディスクをエクスポート。 仮想ハードウェアをアップグレード (一方向)。 仮想ハードウェアをアップグレード (一方向)。	仮想ハードウェアをアップグレード (一方向)。
	GSX Server 2.x または Workstation 3.x	仮想ハードウェアをアップグレード (一方向)。	仮想ハードウェアをアップグレード (一方向)。	仮想ディスクをインポートし、それを使用して ESX Server 3 に新しい仮想マシンを作成。 仮想ハードウェアをアップグレード (一方向)。

第 3 世代のホスト製品から第 5 世代のホスト製品に移動

仮想マシンを GSX Server 2 または Workstation 3 から Workstation 5、ESX Server 3、または VMware Server 1 に移動する場合、プロセスは一方向のみです。前の製品にもう一度戻すことはできません。仮想マシンを移動した後、仮想ハードウェアをアップグレードする必要があります。これにより、Workstation 5 の改善された仮想ハードウェアを利用することが可能です。

詳細は、『Workstation 5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

ESX Server 仮想マシンを Workstation にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存するために独自のファイル フォーマットが備えられています。Workstation は通常ホスト コンピュータのファイル システムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワーク サーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンを ESX Server から Workstation に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 2 世代から第 5 世代

仮想マシンを第 2 世代の製品から直接第 5 世代の製品に移動することはできませんが、中間製品を使用し、プロセスを 2 段階に分けて、仮想マシンを移動することができます。例えば、第 3 世代の製品がある場合、初めに各仮想マシンを第 3 世代の製品に移動し、仮想ハードウェアをアップグレードします。次に、各仮想マシンを第 5 世代の製品に移動し、仮想ハードウェアをもう一度アップグレードします。

第 4 世代を中間製品として使用しても、同じ手順で行うことができます。

第 4 世代の製品へ移動

このセクションでは、仮想マシンを第 4 世代の製品に移動する際の留意すべき点を説明します。

第 6 世代から第 4 世代

Workstation 6 のバージョン変更ウィザードを使用すると、Workstation 6 仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンを第 6 世代から第 4 世代にダウングレードすることができます。

表 11 第 6 世代から第 4 世代への仮想マシンの移動

	移動先ホストシステム		
	仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	ESX Server 2.x	GSX Server 3.x または Workstation 4.x
移動する仮想マシン Workstation 6.x	Workstation 6 Converter インポートウィザードを使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 または、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをダウングレード。 仮想ディスクをインポート。	Workstation 6 Converter インポートウィザードを使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 または、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをダウングレード。 仮想ディスクをインポート。	Workstation 6 Converter インポートウィザードを使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 または、Workstation 6 バージョン変更ウィザードを使用して仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンをダウングレード。

第 5 世代から第 4 世代

VMware Converter を使用しない場合（例えば VirtualCenter 2 で管理されていない ESX Server 2.x に仮想マシンを移動する場合）、Workstation 5 でレガシー仮想マシン（第 4 世代の仮想マシン）を作成することが可能です。この機能を利用して、以下の表に示すように、ほとんどの第 4 世代の製品で使用可能な仮想マシンを作成することができます。

表 12 第 5 世代から第 4 世代への仮想マシンの移動

	移動先ホストシステム		
	仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	ESX Server 2.x	GSX Server 3.x または Workstation 4.x
Workstation 5.x	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、レガシー仮想マシンを作成すれば可能。 仮想ディスクをインポート。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。 それ以外は、レガシー仮想マシンを作成すれば可能。 仮想ディスクをインポート。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。
VMware Server 1	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。
ESX Server 3	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。	VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。

SMP 仮想マシンのユニプロセッサ ゲスト OS

ユニプロセッサ仮想マシンにインストールされた一部のオペレーティングシステムは、SMP 仮想マシンで問題なく実行します。ゲスト OS の説明書で、そのような移動がサポートされているかを確認してください。

仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート

ESX Server には、仮想ディスクファイルを保存するために独自のファイルフォーマットが備えられています。ホスト製品 (Workstation、VMware Server および GSX Server) は通常ホスト コンピュータのファイルシステムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワーク サーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンをホスト製品から ESX Server に移動する場合、仮想ディスクをインポートして、ESX Server によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルの ESX Server へのインポートに関する詳細は、『ESX Server 2.x 運用ガイド』を参照してください。

VirtualCenter 2 で管理されている ESX Server への仮想マシンのインポートに関する詳細は、『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 4 世代から第 4 世代

仮想マシンを第 4 世代の製品から第 4 世代の製品へ移動するには、以下の表に示すようにいくつかの特別な手順が必要になります。

表 13 第 4 世代から第 4 世代への仮想マシンの移動

	移動先ホストマシン		
	仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	ESX Server 2.x	GSX Server 3.x または Workstation 4.x
仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	問題なし。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。それ以外はサポートなし。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。それ以外はサポートなし。
移動する仮想マシン ESX Server 2.x	ゲスト OS によって異なる。	問題なし。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。それ以外は、仮想ディスクをエクスポート。
GSX Server 3.x または Workstation 4.x	ゲスト OS によって異なる。 仮想ディスクをインポートする。	ESX Server が 2.5.x で、VirtualCenter 2 で管理されている場合、VMware Converter を使用すれば、ほとんどの場合問題なし。それ以外は、仮想ディスクをインポート。	問題なし。

相互操作可能構成

第 4 世代のホスト製品 (Workstation 4 および GSX Server 3) で作成された仮想マシンは相互操作が可能で、製品から製品へ自由に移動することができます。一般的に、仮想マシンをホストから別のホストに移動することは、仮想マシンフォルダのすべてのファイルをソース コンピュータから別のコンピュータにコピーすることを意味します。

詳細は、Workstation および GSX Server のマニュアルを参照してください。

同様に、仮想 SMP を備えた ESX Server 2 を実行しているサーバ間で仮想マシンを自由に移動させることも可能です。また、標準バージョンの ESX Server 2 を実行しているサーバ間でも仮想マシンを自由に移動できます。

詳細は、『ESX Server 2.x 運用ガイド』を参照してください。

ユニプロセッサ仮想マシンの SMP ゲスト OS

マルチプロセッサ仮想マシンにゲスト OS をインストールすると、インストーラは通常マルチプロセッサを特別にサポートするハードウェア アブストラクション レイヤまたはカーネルをゲスト OS に構成します。このようにインストールされたゲスト OS は、通常ユニプロセッサ仮想マシンでは稼動することができません。

このため、仮想 SMP を備えた ESX Server からの移動は、仮想 SMP をサポートする他の VMware 製品 (Workstation 5.5 以降および VMware Server) へのみサポートされています。

SMP 仮想マシンのユニプロセッサゲスト OS

ユニプロセッサ仮想マシンにインストールされた一部のオペレーティングシステムは、SMP 仮想マシンで問題なく実行します。ゲスト OS の説明書で、そのような移動がサポートされているかを確認してください。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存するために独自のファイル フォーマットが備えられています。ホスト製品 (Workstation および GSX Server) は、通常ホスト コンピュータのファイルシステムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワーク サーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 2.x 運用ガイド』を参照してください。

VirtualCenter 2 で管理されている ESX Server からの仮想マシンのエクスポートに関する詳細は、『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート

これは、前記の ESX Server 仮想マシンのエクスポートと逆になります。仮想ディスクファイルの ESX Server へのインポートに関する詳細は、『ESX Server 2 運用ガイド』を参照してください。

VirtualCenter 2 で管理されている ESX Server への仮想マシンのインポートに関する詳細は、『VMware Converter ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 3 世代から第 4 世代

仮想マシンを第 3 世代の製品から第 4 世代の製品に移動する場合、特に問題はありませんが、以下の表に示すように特別な手順が必要になる場合があります。

表 14 第 3 世代から第 4 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム		
		仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	ESX Server 2.x	GSX Server 3.x または Workstation 4.x
移動する仮想マシン	ESX Server 1.5.x	仮想ハードウェアをアップグレード (一方方向) するか、レガシーモードで実行。 2 番目の CPU は追加不可。	仮想ハードウェアをアップグレード (一方方向) するか、レガシーモードで実行。	仮想ディスクをエクスポート。
	GSX Server 2.x または Workstation 3.x	サポートなし。	仮想ディスクをインポート。	仮想ハードウェアをアップグレード (一方方向) するか、レガシーモードで実行。

第 3 世代の仮想マシンと仮想 SMP を備えた ESX Server

第 3 世代の仮想マシンを仮想 SMP を備えた ESX Server へインポートすることはできません。このようなインポートを行った場合の問題の 1 つとして、ユニプロセッサ仮想マシンにインストールされたゲスト OS は、SMP 仮想マシンでは正常に機能しない場合があることが挙げられます。

ESX Server 1.5.x 仮想マシンから ESX Server 2.x に移動

ESX Server 1.5.x から ESX Server 2.x に移動する前に、仮想マシンを ESX Server 1.5.x にもう一度戻す必要があるかを考慮してください。

仮想マシンをもう一度 ESX Server 1.5.x に戻す予定がある場合は、仮想マシンを ESX Server 2.x でレガシーモードにて実行します。

仮想マシンの移動は一方方向のみで、仮想マシンを ESX Server 1.5.x に戻して実行する必要がない場合は、仮想マシンを移動した後、仮想ハードウェアをアップグレードします。これにより、ESX Server 2.x の改善されたハードウェアを利用することが可能になります。

詳細は、『ESX Server 2.x 運用ガイド』を参照してください。

第 3 世代のホスト製品から第 4 世代のホスト製品に移動

GSX Server 2.x または Workstation 3.x から GSX Server 3.x または Workstation 4.x に移動する前に、もう一度元の製品に戻す必要があるかを考慮してください。

仮想マシンをもう一度元の製品に戻す予定がある場合は、仮想マシンを GSX Server 3.x または Workstation 4.x でレガシーモードにて実行します。

仮想マシンの移動は一方方向のみで、仮想マシンを GSX Server 2.x または Workstation 3.x に戻して実行する必要がない場合は、仮想マシンを移動した後、仮想ハードウェアをアップグレードします。これにより、GSX Server 3.x または Workstation 4.x の改善されたハードウェアを利用することが可能になります。

詳細は、仮想マシンを移動する第 4 世代の製品 (GSX Server 3.x または Workstation 4.x) のマニュアルを参照してください。

ESX Server 1.5.x 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存するために独自のファイル フォーマットが備えられています。ホスト製品 (Workstation および GSX Server) は、通常ホスト コンピュータのファイルシステムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワーク サーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

仮想マシンをホスト製品から ESX Server 2.x にインポート

これは、前記の ESX Server 仮想マシンのエクスポートと逆になります。

仮想ディスクファイルの ESX Server へのインポートに関する詳細は、『ESX Server 2.x 運用ガイド』を参照してください。

第 2 世代から第 4 世代

仮想マシンを第 2 世代の製品から GSX Server 3.x または Workstation 4.x に移動するには、以下の表に示すように特別な手順が必要になります。仮想マシンを第 2 世代製品から ESX Server 2.x または仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x へ移動することはできません。

表 15 第 2 世代から第 4 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム		
		仮想 SMP を備えた ESX Server 2.x	ESX Server 2.x	GSX Server 3.x または Workstation 4.x
移動する仮想マシン	ESX Server 1.0.x	サポートなし。	サポートなし。	仮想ディスクをエクスポート。
	GSX Server 1.x または Workstation 2.x	サポートなし。	サポートなし。	仮想ハードウェアをアップグレード (一方方向)。

第 2 世代のホスト製品から第 4 世代のホスト製品へ移動

仮想マシンを GSX Server 1.x または Workstation 2.x から GSX 3.x または Workstation 4.x に移動する場合、プロセスは一方方向のみで、元の製品に戻すことは出来ません。仮想マシンを移動した後、仮想ハードウェアを

アップグレードする必要があります。これにより、GSX Server 3.x または Workstation 4.x の改善された仮想ハードウェアを利用することができます。

詳細は、仮想マシンを移動する第 4 世代の製品 (GSX Server 3.x または Workstation 4.x) のマニュアルを参照してください。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存するために独自のファイル フォーマットが備えられています。ホスト製品 (Workstation および GSX Server) は、通常ホスト コンピュータのファイル システムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワークサーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 3 世代の製品へ移動

このセクションでは、仮想マシンを第 3 世代の製品に移動する際の留意すべき点を説明します。

第 6 世代から第 3 世代

仮想マシンを第 6 世代の製品から第 3 世代の製品に移動することはできませんが、逆（第 3 世代から第 6 世代への移動）は可能です。第 3 世代で仮想マシンを作成し、第 6 世代で稼動するように仮想マシンをインポートします。詳細は、「[第 3 世代から第 6 世代](#) (P.17)」を参照してください。

第 5 世代から第 3 世代

仮想マシンを第 5 世代の製品から第 3 世代の製品に移動することはできませんが、逆（第 3 世代から第 5 世代への移動）は可能です。第 3 世代で仮想マシンを作成し、第 5 世代で稼動するように仮想マシンをインポートします。詳細は、「[第 3 世代から第 5 世代](#) (P.21)」を参照してください。

第 4 世代から第 3 世代

仮想マシンを第 4 世代の製品から第 3 世代の製品に移動することはできませんが、両世代の製品で実行するように仮想マシンを作成することは可能です。基本的には、仮想マシンを第 3 世代の製品で作成し、第 4 世代の製品のレガシーモードにて実行します。

第 3 世代と第 4 世代の両方の製品で使用するための仮想マシン作成に関する詳細は、「[第 3 世代から第 4 世代](#) (P.26)」を参照してください。

第 3 世代から第 3 世代

仮想マシンを第 3 世代の製品から第 3 世代の製品へ移動するには、以下の表に示すように、いくつかの特別な手順が必要になります。

表 16 第 3 世代から第 3 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム	
		ESX Server 1.5.x	GSX Server 2.x または Workstation 3.x
移動する仮想マシン	ESX Server 1.5.x	問題なし。	仮想ディスクをエクスポート。
	GSX Server 2.x または Workstation 3.x	仮想ディスクをインポート。	問題なし。

相互操作可能構成

第 3 世代ホスト製品 (Workstation 3.x または GSX Server 2.x) で作成された仮想マシンは相互操作が可能で、製品から製品へ自由に移動させることができます。一般的に、仮想マシンをホストから別のホストに移動するということは、仮想マシンフォルダのすべてのファイルをソース コンピュータから別のコンピュータにコピーすることを意味します。

詳細は、Workstation および GSX Server のマニュアルを参照してください。

同様に、ESX Server 1.5.x を実行しているサーバ間で仮想マシンを自由に移動させることも可能です。

詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存するために独自のファイル フォーマットが備えられています。ホスト製品 (Workstation および GSX Server) は、通常ホスト コンピュータのファイルシステムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワーク サーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンを

ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート

これは、前記の ESX Server 仮想マシンのエクスポートと逆になります。

仮想ディスク ファイルの ESX Server へのインポートに関する詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 2 世代から第 3 世代

仮想マシンを ESX Server 1.0.x から ESX Server 1.5.x への移動は特に問題ありませんが、仮想マシンを第 2 世代のホスト製品から第 3 世代のホスト製品に移動するには、以下の表に示すように特別な手順が必要になります。第 2 世代のホスト製品から ESX Server 1.5.x への移動と ESX Server 1.0.x から第 3 世代のホスト製品への移動はサポートされていません。

表 17 第 2 世代から第 3 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム	
		ESX Server 1.5.x	GSX Server 2.x または Workstation 3.x
移動する仮想マシン	ESX Server 1.0.x	問題なし。	サポートなし。
	GSX Server 1.x または Workstation 2.x	サポートなし。	仮想ハードウェアをアップグレードするか、レガシー モードで実行。

ESX Server 1.0.x 仮想マシンを ESX Server 1.5.x に移動

通常 ESX Server 1.0.x 仮想マシンは ESX Server 1.5.x で相互操作が可能です。詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザー マニュアル』を参照してください。

第 2 世代のホスト製品を第 3 世代のホスト製品に移動

GSX Server 1.x または Workstation 2.x から GSX Server 2.x または Workstation 3.x に移動する前に、元の製品にもう一度戻す必要があるかを考慮してください。

仮想マシンをもう一度元の製品に戻す予定がある場合は、仮想マシンを GSX Server 2.x または Workstation 3.x でレガシーモードにて実行します。

仮想マシンの移動は一方のみで、仮想マシンを GSX Server 1.x または Workstation 2.x に戻して実行する必要がない場合は、仮想マシンを移動した後、仮想ハードウェアをアップグレードします。これにより、GSX Server 2.x または Workstation 3.x の改善されたハードウェアを利用することが可能になります。

詳細は、仮想マシンを移動する第 3 世代の製品 (GSX Server 2.x または Workstation 3.x) のマニュアルを参照してください。

第 2 世代の製品へ移動

このセクションでは、仮想マシンを第 2 世代の製品に移動する際の留意すべき点を説明します。

第 6 世代から第 2 世代

仮想マシンを第 6 世代の製品から第 2 世代の製品へ移動することはできません。また、両方の世代の製品で稼動する仮想マシンを作成することもできません。

中間製品を使用して、逆（第 2 世代から第 6 世代への移動）の移動は可能です。詳細は、「[第 2 世代から第 6 世代](#) (P.17)」を参照してください。

第 5 世代から第 2 世代

仮想マシンを第 5 世代の製品から第 2 世代の製品に移動することはできません。そして、これら両世代の製品で実行する仮想マシンを作成することもできません。

第 5 世代から第 2 世代の移動はできませんが、中間製品を使用して逆の第 2 世代から第 5 世代に仮想マシンを移動することは可能です。詳細は、「[第 2 世代から第 5 世代](#) (P.22)」を参照してください。

第 4 世代から第 2 世代

仮想マシンを第 4 世代の製品から第 2 世代の製品に移動することはできませんが、逆の第 2 世代から第 4 世代に移動することは可能です。基本的には、仮想マシンを第 2 世代の製品で作成し、アップグレードして、第 4 世代の製品で実行できるようにします。詳細は、「[第 2 世代から第 4 世代](#) (P.27)」を参照してください。

SMP 仮想マシンは、第 2 世代の製品に移動させることはできません。

第 3 世代から第 2 世代

仮想マシンを第 3 世代のホスト製品から第 2 世代の製品に移動することはできませんが、両世代の製品で実行するように仮想マシンを作成することは可能です。基本的には、仮想マシンを第 2 世代の製品で作成し、第 3 世代の製品でレガシーモードにて実行します。詳細は、「[第 2 世代から第 3 世代](#) (P.30)」を参照してください。

ESX Server 1.5.x 仮想マシンは、第 2 世代のホスト製品ではサポートされていません。

表 18 第 3 世代から第 2 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム	
		ESX Server 1.0.x	GSX Server 1.x または Workstation 2.x
移動する仮想マシン	ESX Server 1.5.x	問題なし。	サポートなし。
	GSX Server 2.x または Workstation 3.x	サポートなし。	サポートなし。

ESX Server 1.5.x 仮想マシンを ESX Server 1.0.x に移動

通常 ESX Server 1.5.x 仮想マシンは ESX Server 1.0.x で相互操作が可能です。詳細は、『ESX Server 1.5 ユーザーマニュアル』を参照ください。

第 2 世代から第 2 世代

仮想マシンを第 2 世代の製品から第 2 世代の製品に移動する場合、以下の表に示すように、特別な手順が必要になります。

表 19 第 2 世代から第 2 世代への仮想マシンの移動

		移動先ホストシステム	
		ESX Server 1.0.x	GSX Server 1.x または Workstation 2.x
移動する仮想マシン	ESX Server 1.0.x	問題なし。	仮想ディスクをエクスポート。
	GSX Server 1.x または Workstation 2.x	仮想ディスクをインポート。	問題なし。

相互操作可能構成

通常、第 2 世代のホスト製品 (Workstation 2.x および GSX Server 1.x) で作成された仮想マシンは相互操作が可能で、製品間を自由に移動させることができます。一般的に、仮想マシンをホストから別のホストに移動するということは、仮想マシンフォルダのすべてのファイルをソース コンピュータから別のコンピュータにコピーすることを意味します。

詳細は、Workstation および GSX Server のマニュアルを参照してください。

同様に、ESX Server 1.0 を実行しているサーバ間で仮想マシンを自由に移動させることも可能です。

詳細は『ESX Server 1.0 ユーザー マニュアル』を参照してください。

ESX Server 仮想マシンをホスト製品にエクスポート

ESX Server には、仮想ディスク ファイルを保存するために独自のファイル フォーマットが備えられています。ホスト製品 (Workstation および GSX Server) は、通常ホスト コンピュータのファイル システムあるいはホスト OS からアクセス可能なネットワーク サーバに仮想ディスク ファイルを保存します。仮想マシンを ESX Server からホスト製品に移動する場合、仮想ディスクをエクスポートして、ホスト製品によって使用可能なフォーマットに変更する必要があります。

仮想ディスク ファイルのエクスポートに関する詳細は、『ESX Server 1.0 ユーザー マニュアル』を参照してください。

仮想マシンをホスト製品から ESX Server にインポート

これは、前記の ESX Server 仮想マシンのエクスポートと逆になります。

仮想ディスクファイルの ESX Server へのインポートに関する詳細は、『ESX Server 1.0 ユーザー マニュアル』を参照してください。

インデックス

数字

3-D 機能

Workstation 5 以降の仮想マシン 19

64 ビットゲスト OS

Workstation 5 19

E

ESX Server

redo ログファイル 10

SMP 12

アペンドモードディスク 10

仮想ディスクのインポート 9、24、26、27、30、32

仮想ディスクのエクスポート 9

仮想ディスク ファイル フォーマット 9

仮想マシンをホスト製品へエクスポート 15、16、19

仮想マシンをホスト製品へ移動 17

仮想マシンをホスト製品へエクスポート 21、22、26、27、28、29、32

サスペンド状態の仮想マシンをインポート 10

製品の世代 12

取り消し可能モードディスク 10

ESX Server でサポートされていない IDE 仮想ハードドライブ 11

G

GSX Server、製品の世代 12

R

Redo ログファイル、ESX Server 10

S

SMP(対称型マルチプロセッシング)

ゲストをユニプロセッサ仮想マシンへ移動 20、25

ESX Server モビリティ 12

Workstation 5 仮想マシン 19

SMP(対称型マルチプロセッシング)

ゲストをユニプロセッサ仮想マシンへ移動 16

V

VirtualCenter の性能 11

VMotion の性能 11

VMware ACE、他の製品の仮想マシンを使用 14

VMware Converter

サポートされているソースおよびインポート先マシン 10

第 5 世代から第 5 世代 18

VMware Player、他の製品によって作成される仮想マシンの使用 14

VMware コミュニティフォーラム、アクセス 6

W

Workstation

Converter インポート ウィザード 11

製品の世代 12

Workstation 6 の Converter インポート ウィザード 11

あ

アップグレード

1 世代を超えた一方向の - 17

1 世代を超えた一方向の移動 13、21、27

3 世代を超えた 17

ESX Server 1.5 から ESX Server 2 への一方向の移動 27

仮想ハードウェア 13

第 2 世代から第 3 世代への一方向の移動 30

第 3 世代から第 4 世代への一方向の移動 27

2 世代を超えた移動 22

アペンドモード、ESX Server ディスク 10

い

インポート

ESX Server とスナップショット 10

ESX Server の仮想ディスク 9、24、26、27、30、32

え

エクスポート

ESX Server 仮想マシンをホスト製品へ 17、21、22、26、27、28、29、32

ESX Server から仮想ディスクへ 9

ESX Server 仮想マシンからホスト製品へ 19

ESX Server 仮想マシンをホスト製品へ 15、16

お

オペレーティングシステム、VMware Converter が稼働できる - 10

か

カーネル、SMP 仮想マシン 12

仮想 SMP、ESX Server 12

仮想ディスク ファイル フォーマット、ESX Server 9

仮想ハードウェア

一方向アップグレード 27

仮想ハードウェア、一方向アップグレード 13、17、
21、27、30

さ

サスペンド状態の仮想マシン、ESX Server のインポート 10

し

システム要件 10

す

スナップショット、ESX Server のインポート 10

せ

世代

第2世代へ移動 31

第3世代へ移動 29

第4世代へ移動 23

第5世代へ移動 18

第6世代へ移動 15

特定の VMware 製品 12

そ

相互操作可能構成

第2世代 32

第3世代 29

第4世代 25

第5世代 18

て

テクニカルサポート リソース 6

と

取り消し可能モード、ESX Server ディスク 10

な

ナレッジベース、アクセス 6

は

ハードウェア アブストラクションレイヤ、SMP 仮想マ
シン 12

ほ

ホストシステム要件 10

ま

マルチプロセッサ仮想マシン
モビリティ 12

ゆ

ユーザーグループ、アクセス 6

ユニプロセッサ ゲスト、SMP 仮想マシンの - 26

ユニプロセッサ ゲスト

SMP 仮想マシンの - 26

ユニプロセッサ ゲスト、SMP 仮想マシンの - 24

れ

レガシー仮想マシン、Workstation 5 で作成 24